

年齢に応じて段階的に

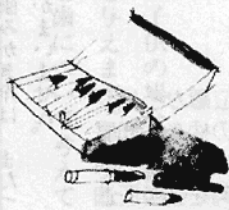
子供、とくに幼児にとっては、手にする物すべてが遊び道具です。しかし、ハサミ、アイロン、ライターなど、おとなが必要とする家庭用品の数々も、幼児にとっては危険なものが多いようです。

おもちゃを与えるのは、このような「危険」なものから子供を遠ざける、という効用もあります。幼児にとって、触れたり、しゃべったりしても危険のないものであれば、ハンカチでも何でもよいわけですが、やはり、子供の心の成長に役立つおもちゃを与えたいものです。

最近では、おもちゃの研究も進み、素材、色、デザイン、機能とにもすぐれたものが多く見られますが、あまり手のこんだおもちゃは、一考する必要があります。たとえば、自動装置やリモコン装置付きのものも、度が過ぎると逆におもちゃに遊ばせてもらうということになりかねません。おもちゃは、子供の心身の成長



発達を助長させる役割を果たすものですから、与え方には、年齢に応じた教育的な目的と計画性が必要です。いくら子供が気に入っているからといって、年齢にふさわ



しつけは「狭」と書きますが江戸時代に日本人がつくった漢字です。おそらく「身のこなし方や動作が美しくなるように」という親の願いがこめられているのでしょう。しつけのねらいは、身の回りのことや対人関係の作法な



しくないおもちゃを与えるのは好ましくありません。ミルクから離乳食、そしてごはん、と食物を年齢に応じて段階的に与えるような配慮が、おもちゃの場合にも必要です。

梅の効用——梅肉エキスの作り方

梅雨時は、不順な天候についての調子を乱してしまいがちですが、疲労回復などに効果をもつ梅肉エキスを作ってみませんか。

用意するものは、
▽肉が厚く大粒の硬い青梅
約二キログラム

ど、日常生活に必要な行動の型を身につけさせることにあります。このため、しつけは、エチケットや生活技法などの形式的な面と、子供自身の欲求や感情にかかわる内面的な動機付けの両面を持っています。

しつけ 心の交流を背景に

形式的な面は、基本的な生活のしかたの問題ですから、その意味では、いや応なしにある型にはめこまなければなりません。しつけは一面で押しつけであるといわれるの

子供の成長に応じて、感覚的なおもちゃから思考的なものへ、また、一人で遊ぶおもちゃから社会性が身につく多人数で遊ぶおもちゃへ、などと徐々に変えていくのが賢明でしょう。

- ▽ホウロウ引きのナベ、もしくは土ナベか耐熱ガラスのナベ
- ▽スリコギとスリバチ
- ①梅をきれいに水で洗い、ひとつずつ水気をふきとります。
- ②タネをとります。二枚の板には

もそのためでしょう。ただその場合でも、「歯をみがきなさい」と一方的に言うより、親も一緒に歯をみがいてやるなどの配慮が必要です。子供が、しつけになじめるような環境づくりをしてあ

けることが必要でしょう。一方、内面的な動機付けの面では、子供に、自ら進んで「してみたい」という気持ちを起こさせることが大事です。ところで子供の自発的態度は、しつけに対する自分の興味、

- ③梅の実を、スリバチの中に入れてスリコギですりつぶします。
- ④すりつぶした梅を、二枚合わせたガーゼでしぼって汁をとります。
- ⑤その汁をナベに入れて、ドロツとなるまで中火で煮つめます。黒かつ色で、あめ状になればできあがりです。

二キロの青梅から、約百グラムの梅肉エキスができます。一回の摂取量は、丸薬一粒分ぐらいが適当でしょう。子供の場合は、ハチミツなどで甘味をつけるとよいでしょう。

関心もさることながら、母親の心情を読んで、自らも母親と同じことをしようとするところにわき上がってくる人が多いようです。

その意味では、しつけの内面的動機付けにとって大切なのは、子供の母親に対する信頼、敬愛の情であるといえるでしょう。

親から子への「一方通行」は、決してよいしつけとはいえません。しつけを通して、親と子の人間的な触れ合いがあり、それによって子供が生きがいを感じていく——親と子の心の交流を伴ったしつけを実践したいものです。